

大阪市立大学と京都大学との共同研究の概要

2020年6月12日

大阪市立大学

大阪市立大学大学院医学研究科は

- ① 特異抗体を調べる独自の手法を持つこと
- ② COVID-19 患者の抗体の経時的変化および血清疫学の豊富な知見を有すること
- ③ SARS-CoV-2 に関する様々な評価系を有すること
- ④ 大阪市立大学医学部附属病院と大阪市立総合医療センター、十三市民病院、阪和第二病院と連携して新型コロナウイルス感染患者の診療に従事した豊富な臨床経験があること

などの優位性を生かし、京都大学医学部附属病院ならびに京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) とそれぞれ共同研究を実施します。

<研究の概要>

- 1 : 新型コロナウイルス感染症の病態および血清動態の解明に基づく医薬品開発
新型コロナウイルスの臓器特異性とその反応や、宿主-病原体相互作用を明らかにすることで、真の病態に迫る研究に取り組む。効率的な病態解析や医薬品の開発、ワクチン開発に貢献する。
- 2 : 抗体価測定システムの開発および疫学研究
抗体価測定による血清パネルの構築や、病期の患者由来抗体を用いた中和試験により抗体の機能的解析を進め、頑強性の高い抗体価測定システムを開発する。同時に、様々な背景を持つ患者集団や医療従事者に検査を実施し、有用性を評価する。抗体検査に合わせて PCR 検査、抗原検査を実施・評価することで感染の実態を把握する。